

震災後の水分補給・ストックに関する調査 vol.4

約半数の家庭で水の備蓄ゼロ 3日分以上備蓄している家庭は1割に満たず 南海トラフ断水被害が大きいエリアの備蓄意識は高まる

キリンビバレッジ株式会社(本社:東京都中野区、代表取締役社長 首藤由憲)は、東日本大震災を機に水を扱う飲料メーカーとしての使命から、有事の際でも最低限の水分を確保できるよう、日頃から無理なく無駄なく備蓄品をストックする「スマートストック」を推進しております。

2011年より、小学生の子どもがいる母親800名に対し、「震災時の備えと水分補給に関する調査」を実施しており、経年で備蓄や水分補給に対する意識を調べています。2013年6月に実施した調査では、水のストックをしている家庭は約半数にとどまり、災害後に救援体制が整うといわれる「3日以上」の備蓄をしている家庭は全体のわずか3.8%しかいないという結果になりました。以下がその調査結果になります。

【基本調査概要】

| | |
|--------|--------------------------|
| 調査方法 | : インターネットアンケート |
| 調査実施機関 | : 楽天リサーチ株式会社 |
| 調査実施期間 | : 2013年6月18日(火)~6月20日(木) |
| 対象地域 | : 全国 |
| 対象者 | : 小学生の子どもを持つ母親800名 |
| 対象者年代 | : 30歳~49歳 |

【本リリースサマリー】

① 現在、約半数の家庭で水の備蓄ゼロ。3日分以上の水を備蓄している人はわずか3.8%

現在、ペットボトルの水のストックがあると回答した人は52.2%で、約半数はストックがゼロという結果になりました。さらに、3日分の備蓄目安となる「1人あたり2リットルペットボトル5本以上」の水をストックしている家庭は水のストックがある人の7.4%、調査対象者全体ではわずか3.8%にとどまっており、最低限必要な水の量をきちんと把握していない人が多いと考えられます。

② 水の備蓄量、昨年と比較して変わらない人が8割以上

現在の備蓄本数に経年変化があるか尋ねたところ、2012年と比較して変わらないと回答した人が87.3%にのびました。大多数の人が備蓄必要量を満たしていないにもかかわらず、備蓄量を増やす意識がないということが読み取れます。

③ 南海トラフ地震で断水被害が大きいと想定される県では水の備蓄量が増加。 備蓄理由も「非常用」とする人が8割を超える

南海トラフ巨大地震で断水被害が大きいと想定される県(静岡、愛知、京都、大阪、兵庫)※では水の備蓄量が平均4.7本(全国平均4.0本)と、昨年の平均備蓄本数よりも0.6本増加していることがわかりました。

同地域では、備蓄している水の利用目的を「非常用の備え」としている人も昨年比3ポイント増加していることから、南海トラフ地震の想定報告書を受けて非常用備蓄への意識がやや高まっている傾向にあると見られます。

※4ページ・参考資料参照

④ 日々の暮らしでもしにも備える、循環備蓄。

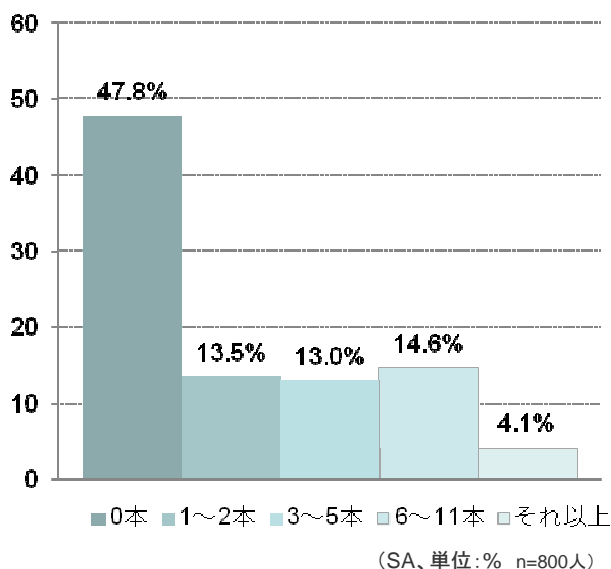
災害発生時、ライフラインが止まることを想定して、まずは家族に必要な備蓄量を知り、きちんと備蓄することが大切です。また、ただ備蓄するのではなく、いざという時に備蓄品の期限切れを防ぐため、日常生活の中で消費しながら備蓄をすることをおすすめします。

① 現在、約半数の家庭で水の備蓄ゼロ。3日分以上の水を備蓄している人はわずか3.8%

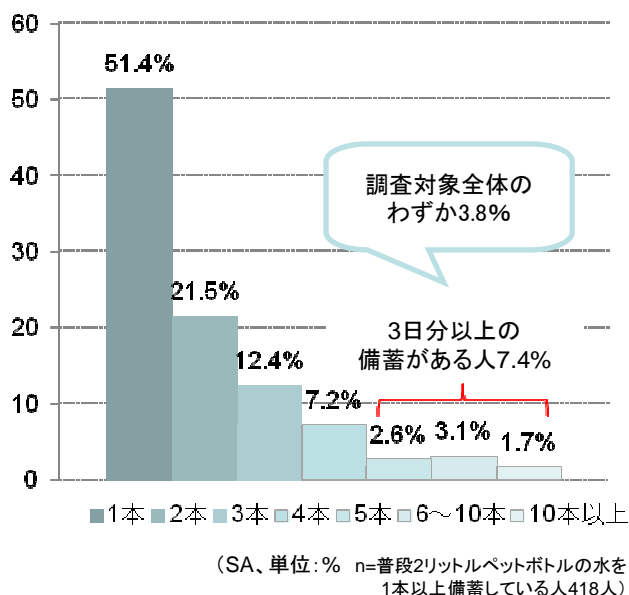
今年5月下旬に発表された南海トラフ巨大地震対策の最終報告書では、「飲料水・食料等を1週間分以上確保する必要がある」としています(中央防災会議 防災対策推進検討会議 南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ「南海トラフ巨大地震対策について(最終報告)」参考)。しかしながら、現在、ペットボトルの水のストックがない家庭が47.8%、あると回答した家庭でも家族一人あたりに計算しなおすと51.4%が1本しかストックしていないと回答しています。救援体制が整うといわれる3日間に、家族一人あたりが必要な生活水の目安は「2リットルペットボトル5本以上」、1週間分だと「2リットルペットボトル11本以上」の計算になります。ペットボトルの水を備蓄している人の中で、備蓄量が5本以上の人は7.4%。備蓄が0本の人を含めた全体からすると、わずか3.8%しかいないという結果になりました。つまり、現状の備蓄量と必要な備蓄量にかなりの乖離があります。

なお、震災前後のペットボトル水備蓄本数の推移を見ると、震災直後に備蓄数が増え、そのまま備蓄数は4本前後で推移しています。震災以降、備蓄の意識がありながらも、必要な量を把握できていない、または定期的な見直しが行われていないのかもしれませんが。

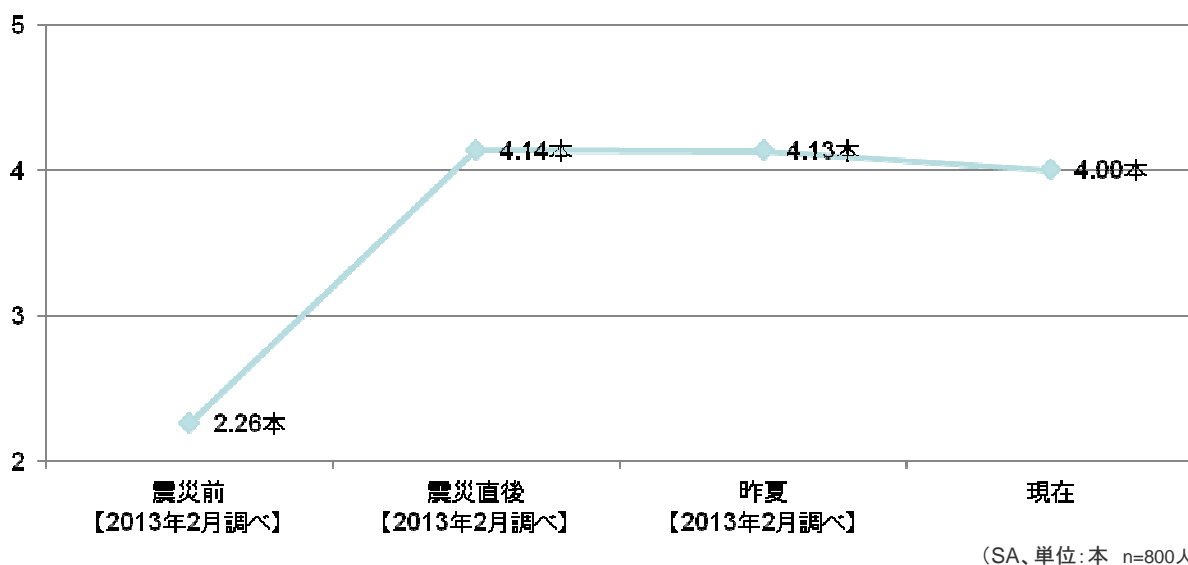
普段、2リットルペットボトルの水を何本備蓄していますか



普段の2リットルペットボトルの水の備蓄量を家族の人数分で割ると、一人あたりおよそ何本になりますか



普段、備蓄している2リットルペットボトルの水の推移

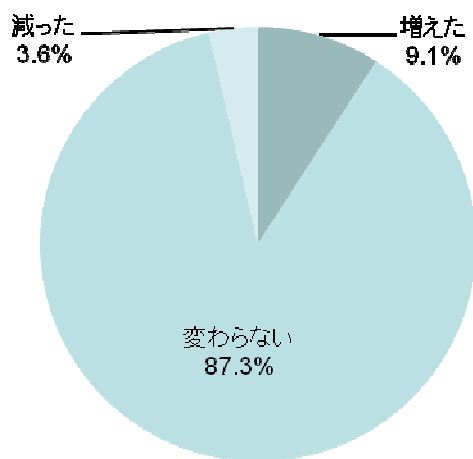


② 備蓄量を見直していない？水のストック、昨年と変わっていない人が8割以上

現在の備蓄本数に経年変化があるか尋ねたところ、2012年と比較して「変わらない」と回答した人が87.3%でした。全体的に、備蓄量を増やす意識がある人は少ないようです。

前ページにあるように、3日分以上を備蓄している人が全体のわずか3.8%であるにもかかわらず備蓄量が変化していないということは、1日に必要な水の量や何日分の備蓄が必要なのかが認知されていないと考えられます。

現在の2リットルペットボトルの水の備蓄本数は、
2012年と比較して量に変化はありましたか？



(SA、単位：% n=800人)

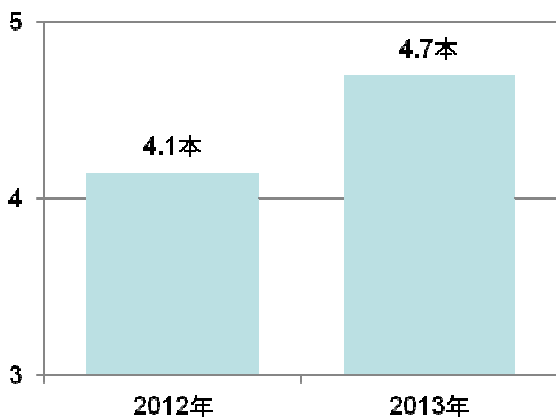
③ 南海トラフ地震で断水被害が大きいと想定される県では水の備蓄量が増加。 備蓄理由も「非常用」とする人が8割を超える。

南海トラフ巨大地震で断水被害が大きいと想定される県（静岡、愛知、京都、大阪、兵庫）※では、水の備蓄量が平均4.7本と全国平均の4.0本を上回っていました。この数は同地域の昨年の平均備蓄本数よりも0.6本多く、昨年よりも備蓄本数を増やしている人が多くなっていることがわかります。

また、備蓄している水の利用目的を「非常時に備えるため」としている人も3ポイント増加しており、南海トラフ地震の想定報告書を受けて非常用備蓄への意識がやや高まっている傾向にあると思われます。

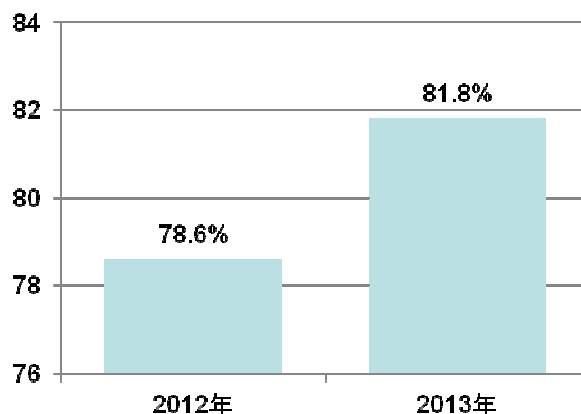
※4ページ・参考資料参照

普段、備蓄している2リットルペットボトルの水の本数はどれくらいですか？



(SA、単位：本、n=南海トラフ地震で断水の被害が大きいと想定される地域に住んでいる140人(2012年)、166人(2013年))

備蓄している水の用途として、「非常時に備えるため」と回答した人の割合



(MA、単位：%、n=南海トラフ地震で断水の被害が大きいと想定される地域に住んでいる140人(2012年)、166人(2013年))

④ 日々の暮らしでもしにも備える、循環備蓄。

災害時にライフラインが止まってしまうことを想定し、以下の事柄を定期的に見なおすことが有効です。

■ 家族に必要な備蓄量を知る

南海トラフ巨大地震対策の最終報告書では、各家庭で1週間の備蓄が必要としています。人が1日に必要とする水は3リットル。家族数×1週間分がどれくらいになるのか、試算してみるとよいでしょう。

■ ベストは1週間分以上、まずは3日から

災害後、救援体制が整うまで約3日を要するといわれています。消防庁「防災マニュアル-震災対策啓発資料-」では、「最低3日間程度の備蓄」を目安としています。必要な備蓄品の中でストック量の不足が目立つ代表物の一つは水といわれています。飲料、調理に必要な水が備蓄されているか、再確認することをおすすめします。その後、備蓄量を増やし、1週間分以上の備蓄を実践していきましょう。

■ 日常生活の中で備蓄品を使い、期限切れを防ぐ

食料品をはじめとする備蓄品が期限切れ(賞味・消費・使用)を起さないよう、日常生活で活用/消費しながら、なくなった分をその都度補充していくという方法が「循環備蓄」です。期限が迫ってからまとめて消費するのは負担になり、また買い替えにはお金もかかります。しかし「循環備蓄」をすることで消費と補充のこまめなサイクルが可能となり、前述のようなデメリットがなくなるのです。

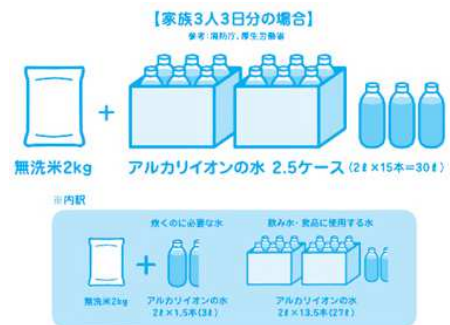
■ 家族で防災について話し合う

いくら備蓄をしても、その保管場所や内容を家族が知らなければ活用できません。ストック場所はお子さんにも伝え、家族全員で把握しておくようにしましょう。また、災害時は携帯電話・固定電話ともつながりにくくなります。災害用伝言ダイヤルやSNSなど、家族との連絡手段を複数確保し、活用できるよう確認しておくことも大切です。

3日分の備蓄とは？ (赤い口は人数分必要)

- 水 9リットル
(ex. 2Lペットボトル水×5本)
- 主食(無洗米、アルファ化米等) 9食
- 毛布 1枚
- 簡易トイレや衛生用品
- ビニールシート等の敷物
- 携帯ラジオ、懐中電灯、乾電池
- 救急医療薬品類
- その他非常用発電機や工具類、燃料などを検討

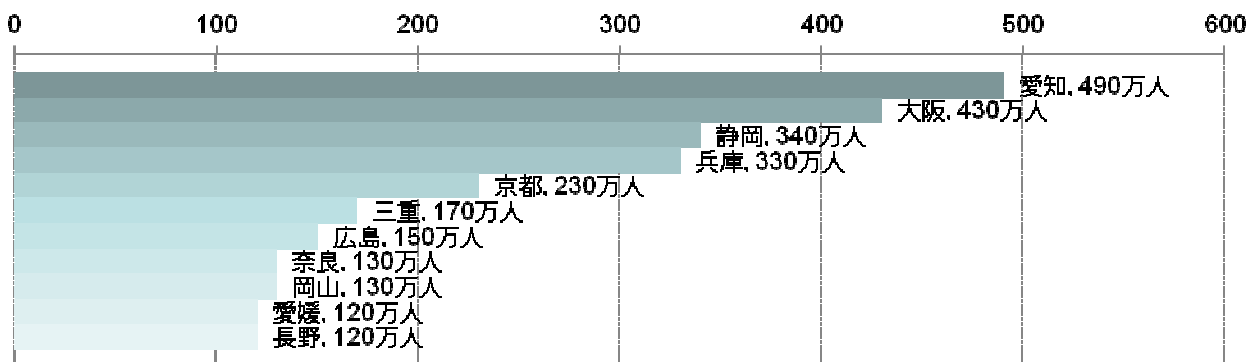
※首都直下地震帰宅困難者等対策協議会による試算



■ 参考資料:南海トラフ地震 被害想定データ

数値は2013年3月18日発表の「南海トラフ巨大地震の被害想定について 第二次報告」(中央防災会議 防災対策推進検討会議 南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ)にて算出された上水道断水想定データより、都道府県別の最悪のケースを抜粋し、独自に算出・編集したものです。

上水道断水による被害人数(2013年3月の予測)



※内閣府・有識者会議による2013年3月の試算

「キリン アルカリイオンの水」のスマートストック(循環備蓄)啓発活動

2011年3月の東日本大震災では、被災地はもとより周辺地域においてもライフラインが止まったり、買い占め等で一時的に店頭から備蓄に適した商品がなくなるといった現象が発生しました。

キリンビバレッジは、水を扱う飲料メーカーとしてこのような事態をどのように防げるか、またそれに対してどんな活動ができるのかを考え続け、「スマートストック(循環備蓄)」の啓発活動を2011年より展開して参りました。

日頃から水、非常食などを備蓄することは大切ですが、備蓄したままにしておくと、期限が切れてしまったり、災害時に使えないなどの「ムダ」へとつながります。これらのムダは、非常用備蓄を日常生活でも使う「循環備蓄」を実践することで防げます。「循環備蓄」とは、「非常時にしか使わない備蓄品」をストックするのではなく、ペットボトルの水や食料などは毎日の料理や生活の中でも使うことで期限がくる前に消費し、消費した分を新しく補充していく方法です。

「キリン アルカリイオンの水」の公式サイトでは、ご家庭の適切な備蓄量や非常時にはどれくらいの水や食料が必要なのかをチェックできる「スマートストックチェッカー」を設置しております。また、家族の適切な備蓄量長期保存が可能な食材を使ったアレンジレシピも各種ご紹介しております。

日々の暮らしの延長上で、無理なく無駄なくもしまに備える。「キリン アルカリイオンの水」は、スマートストックの啓発活動を推進していきます。

キリン アルカリイオンの水 スマートストックサイト

<http://www.beverage.co.jp/alkali/smartstock/>

スマートストックチェッカー

大人(男) 1人 大人(女) 1人 子ども 1人

家族のスマートストックの量を計算する [CHECK] [クリア]

3 人家族の場合 → 無洗米必須 (3日分) 推定ストック量 1.9 kg + アルカリイオンの水 2Lペットボトル 15 本 (約 2.5 ケース)

スマートストックレシピ

家族や旅行、防災備蓄に 非常時だけでなく普段の生活でも使うことができるから、お料理のアイデアもたくさん思いつけるから、お料理のアイデアもたくさん思いつけるから、お料理のアイデアもたくさん思いつけるから。

アルカリイオンの水

お料理のアイデアもたくさん思いつけるから、お料理のアイデアもたくさん思いつけるから、お料理のアイデアもたくさん思いつけるから。

お料理のアイデアもたくさん思いつけるから、お料理のアイデアもたくさん思いつけるから、お料理のアイデアもたくさん思いつけるから。

「キリン アルカリイオンの水」について

- 1.商品名 「キリン アルカリイオンの水」
- 2.発売地域 全国
- 3.容量・容器 2Lペットボトル 500mlペットボトル
- 4.価格 230円(2L) 130円(500ml)
※消費税抜き希望小売価格
- 5.商品特長 富士山がゆっくり育んだおいしい天然水をアルカリイオン化した、口あたりまろやかですと飲める、日本人が飲み慣れているやさしい味わいの軟水です。毎日の水分補給はもちろん、ごはんを炊いたり、いろいろなお料理にも使える、家族のからだにやさしい水です。家族と水のより豊かな関係をまじめに考えるアルカリイオンの水は、もしもの時に備える「スマートストック(循環備蓄)」やこまめに水分をとる「ウォーターローディング(運動時の水分補給法)」を推奨しています。
※2Lペットボトルの採水地は静岡県御殿場市(富士山の伏流水)、500mlペットボトルは静岡県焼津市です。



<報道関係者様からのお問合せ先>

キリン「アルカリイオンの水」PR事務局(株イニシャル内) 担当:丸山・秋山・村木
〒107-0052 東京都港区赤坂-15-1 赤坂ガーデンシティ 18F
TEL: (03) 5572-6064 FAX: (03) 5572-6065

※本リリースをお送りさせて頂いている皆様の個人情報は、株式会社イニシャルの個人情報保護方針に基づいて、厳重に管理させて頂いております。今後、弊社からのニュースリリースの配信を希望されない方は、恐れ入りますが privacy@vectorinc.co.jp までご連絡をお願い致します。